

年の瀬が迫ってまいりましたね。今年はお正月早々の大震災に始まり、本当に災害の多い一年でした。中でも気候変動による災害は年々大きくなり、待たなしの状況にも拘らず政治家の発言は相変わらず経済、経済ばかりです。もしかして経済と気候変動が相反する事だとしたら、私たちはどちらを向いて生きていったら良いのか、この先の人生には相当の覚悟が必要ですね。果たして私たちにその覚悟が決められるのでしょうか？

さて、今日は新春公演のお知らせです。久しぶりに音楽劇『詩人の恋』を上演しようと思います。ハイネが作詞し、シューマンが作曲した詩人の恋、という16曲からなる連作歌曲を歌いながらドラマは進んでいきます。ドイツ語の訳詞は岩谷時子さんです。

若き天才ピアニストが情熱を失ってピアノが弾けなくなってしまい、その情熱を取り戻すためにアメリカからオーストリアのウィーンまで高名な教授を頼ってやってきます。ところがその教授から「ピアノソロの勉強をするのではなく、声楽のための伴奏の勉強をしろ」と言われます。しかも「伴奏の勉強をする前に歌のレッスンを受けろ」とまで……。

そして彼はいやいやながら年老いた声楽教師の元にやって来ます。歌など歌いたくないという彼に老教師は、初歩の発声練習から始め『詩人の恋』を一曲目からレッスンさせようとしています。そのちぐはぐなレッスン風景は、さながら凸凹コンビの漫才のようです。

そして老教師の飽くなき情熱によって次第に歌だけでなく、音楽というものの真髄を掴んでゆく天才ピアニストの姿は、必ずや観る人の心に大きな感動を呼び起こす事でしょう。

僕の愛してやまないこの素晴らしい作品を是非、是非、ご覧いただきたいと願っています。

合掌

やん 辰 健